

未完成交響楽 (1933)

LEISE FLEHEN MEINE LIEDER

メディア 映画

ジャンル 伝記 ドラマ 音楽

製作国 ドイツ／オーストリア

色彩 B&W

時間 88分

初公開日 1935/03

公開情報 劇場公開

【解説】

ロマンティックな楽聖シューベルトの伝記映画で、本国ドイツでの評判は必ずしもよくなかったようだが、日本では戦前ドイツ映画の代表傑作と認められ、大ヒットした。

貧しいシューベルト（H・ヤーライ）がギターを質入れすると、同情した質屋の娘エミー（L・ウルリッヒ）は規定以上の金にゲーテの詩集を添えて渡す。小学校で教えながら、音楽の勉強を続ける彼は、ある日、算数の授業中、数字が音符となり、子供たちが『野バラ』を唄う幻をみる。生活を憐れんだ友人に誘われ、彼は侯爵夫人の夜会に出席、後に交響曲『未完成』として知られる曲をピアノで披露する。弾くうちにインスピレーションが沸いた所を、フィアンセの耳打ちに笑い出した夫人の姪に腹を立て、演奏を止める。これを夫人は咎めるが、同時に姪の無礼を詫びる。暫くして、ハンガリーの伯爵から音楽の家庭教師に招かれた彼は行って驚いた。その生徒こそ先日の姪っ子カロリーネ（ソプラノ歌手=M・エゲルト）。彼女は彼の毅然たる音楽への姿勢に共鳴し、教わるうち恋に落ちてゆく。しかし、彼と結婚するという娘を父伯爵は当然許さず、シューベルトは罷免される。それから数カ月、結局、親の決めた相手に嫁ぐカロリーネだったが、その華燭の典にシューベルトも招かれ、『未完成』をピアノで弾くと、やはり途中でカロリーネが慟哭の挙げ句、失神してしまう……。

永遠に未完成のままの名曲の成り立ちは無縁こんなではない。あくまで劇の都合にいいような牽強附会の解釈なのだが、フォルスト（「たそがれの維納（ウィーン）」）は巧みな映像表現でこれを顔かせてしまう。そして、本来なら悲劇の作曲家の死で終わる他ない映画を、明るい希望に包ませたまま終えるのだ。

【クレジット】

監督	ヴィリ・フォルスト	Willi Forst
脚本	ヴィリ・フォルスト	Willi Forst
撮影	フランツ・プラナー	Franz Planer
音楽	ウィリー・シュミット＝гентナー	Willy Schmidt-Gentner
出演	ハンス・ヤーライ	Hans Jaray
	ルイーゼ・ウルリッヒ	Luise Ullrich
	マルタ・エゲルト	Martha Eggerth
	オットー・トレスラー	Otto Tresler